

Susono City



令和5年度

6月号

6月1日発行

# “学びの森”だより

## 夏は来ぬ



意を決し、ウォーキングを再開しました。整然と並んで植えられている早緑色の苗が、日に日に色を増し、心地よさげに6月の風に揺れています。本格的に夏が近づいて来ていることを実感する毎日です。

5月の中頃、「森の道標」として、6年生の音楽の事前研修を行った際、偶然、教科書にあった一枚の写真と出合いました。菜の花畑の上に広がる赤く染まりつつある空。春霞に包まれた遠くの山並み。麓に点在する家々の窓には明かりが灯り、その地に暮らす人々の営みが見えてくるような風景。文部省唱歌「おぼろ月夜」のページでした。

♪ 里わのほかげも 森の色も 田中の小道を たどる人も  
かわずの鳴く音も かねの音も さながらかすめる おぼろ月夜 ♪



一番の歌詞もさることながら、二番の歌詞が何とも言えず美しく、すっかり郷愁に誘われてしまいました。子供の頃を追体験しているかのような懐かしい風景に加え、蛙の鳴き声や鐘の音までもが描かれ、それら全てを包み込むおぼろ月に自然とフォーカスしていくという構成。文語調独特のリズム感。一つ一つの言葉に刻まれている確かな描写。表現力の巧みさを感じました。

そんな光景が、頭の片隅に残っている中、久々に映画館に足を運び、「銀河鉄道の父」を見てきました。童話作家で、詩人でもある宮沢賢治の父親を主人公に描かれている映画です。自分自身のルーツとも言える岩手県の花巻市が舞台となっていて、全編、お国訛りで語られていたことも重なってか、考えさせられることの多かった2時間あまりでした。

国語の教科書にも掲載されている数々の作品を世に残してきた宮沢賢治の生涯を、分かっている前提で、これまで作品を読んできましたが、父親目線で描かれた映画を見ることで、今までとは異なった賢治の世界に触れられた気がしました。原作者である、直木賞作家、門井慶喜氏が、史実の上に、どこまで筆を加えたかは不明です。しかし、賢治に無償の愛を注ぐ父親の姿や、作品づくりの原動力でもあった、妹トシの存在ばかりではなく、

彼を取り巻く登場人物たちとの関わりの中で、人間、宮沢賢治が描かれたことで、彼の作品に命が吹き込まれたことは事実でしょう。当然、役者の演技力に寄るところも大きかったことは否めませんが、「永訣の朝」や「雨二モマケズ」の詩の朗読が流れた瞬間、賢治の無念さや届かなかった願いまでもが、真っ直ぐに伝わってきたようで、これまでの自分の読みが、いかに浅いものであったかを、教えられた気がしました。「読み方は自己を読む 書き方は自己を書く」と説いた国語教育者の言葉が、実感を伴ったものになりました。

同じスクリーンを一緒に見ていた年の離れた仲間の一人は、賢治の作品の世界観を、世界恐慌や東北地方を襲った冷害や干ばつという時代背景との繋がりの中で感じ取ったことで、より作品の理解が深まったと話していました。見方、感じ方は人それぞれです。

自分が感じた思いを大切にしながらも、異なった見方をする他者と思いと共有し合うことによって、より深く味わえた「銀河鉄道の父」でした。これも、映画の楽しみ方の一つなのかもしれません。授業も、同じなのではないでしょうか。

(文責：指導員 照井 久美子)



5月から、「森の道標」がスタートしています。

以下は、採用2年目、南小学校の先生からいただいた「授業力向上シート」の中から、引用したものです。授業と本気で向き合う若い先生の日々の実践が、生き生きと描かれています。

事前研修では、自分が「やらなければならないこと」を考えて指導案を書きました。しかし、「楽しい？」と尋ねられ、自分が楽しいと思えない授業が、子供にとって、楽しい活動になるはずがないと分かりました。12枚の段落カードをパズルのように並べ替える活動を通して、順序を表す言葉や、つながりを自ら意識するというアイデアが出たとき、同じ力を育てる活動でも、やらされるのと進んで取り組むのでは、効果も楽しさも大きく異なると気づき、授業の奥深さを感じました。(略)



決められたやり方にとらわれずに、身に付けさせたい資質・能力を、子供が楽しく身に付けられるような授業の工夫を柔軟に考えていきたいと思いました。12段落を正しく順番に並べ替えるのは、苦手な子にはハードルが高かったので、一部を固定しておいて、順序を表す言葉が入った段落のみを考えさせることで、よりシンプルに目標に近づけたいと思います。また、その子に応じて挑戦できるように、裏面に順番を書いておいて、どうしても分からないところだけ、裏面を見てよいとしても面白いと思いました。表にまとめる活動も、「誰かに紹介するために、内容を整理したいから表にまとめたい！」という思考の流れになるように、単元計画を立てていきたいです。



(←「ほたるの一生」の段落カードを順番に並べ替えます。順序を考える手掛かりを探して、まずは一人で考え、続いてグループで自分の考えを出し合いました。)

編集・発行：“学びの森”

〒410-1102 裾野市深良 435 番地

TEL : 055-995-4903

FAX : 055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/224000>

